



# 100年に一度の危機といわれる今、技術士は

(社)日本技術士会北海道支部 事業委員会委員長  
技術士(上下水道/総合技術監理部門)

中野 淑文

100年に一度の危機？ 未曾有の出来事？ それにしても夏までは順調だったトヨタまで？

2008年の世相を表す漢字は「変」であった。公募で選ばれた理由は、アメリカ初の黒人大統領の誕生、アメリカ発の世界的な金融情勢、株価暴落や円高ドル安などの大変動、食の安全性の確保や世界的な気候異変による地球温暖化問題がより深刻となり、地殻変動などの天変地異などにも変化があらわれた年であったことである。

あらためて、干支のことを調べてみると、2008年の「戊子」は、新しい動きが始まり、価値観の変化が自然発生し、予測出来ない事象が続出するとある。また、2009年の「己丑」は、今までと違う新しい仕組みが誕生とある。正に2008年は「変」、では2009年は、新しい時代に変「化」する？

NHKの「未来への提言スペシャル」に出演の環境学者レスター・ブラウンは、かつてない金融危機を克服するにはグリーン雇用を生み出せと提唱している。また、まず税率の水準・総額をかえずに、所得税を引き下げてCO<sub>2</sub>などの排出に対して課税し、経済の運営を環境からみて持続できる方向へ向けるべきとも言っている。

昨年、東京都が2009年度から環境減税をCO<sub>2</sub>の排出量を削減のため、設備投資で省エネを達成した中小企業を対象に「環境減税」を実施する方針を固めたニュースがあった。東京都の動きは早い。これも新しい仕組みづくりに第一歩ではないか。そう考えると今年は大事な年である。

では、われわれの住む北海道のこれからは？ 北海道の課題は、前からも言われているように環境、食糧、エネルギーなどがある。

また、北海道は国家の基軸である新幹線・高速道路という基幹交通網の基盤整備が他県に比べ遅れており、1日でも早い整備という課題もある。

これらはお互い影響しあう。例えば、日本の食糧基地を目指すには、競争相手の他県に比して輸送上のスピードの面で、選択肢が限られるハンディがあり、乗り越えるためにはより以上の努力が求められるのである。

昨年12月にやっと北海道新幹線の札幌から長万部までの部分着工が政府・与党間の合意を得て、今年末までに整備手法を検討することとなった。一步前進は喜ばしいことだが、先はまだ長い。

基盤整備が遅れていても、これからの北海道の時代に合った環境、食糧、エネルギーについて仕組みづくりを進めることは待ってはくれない。

今年の技術フォーラムの特別課題では「これから～も北海道！ ～は北海道！ ～の北海道！」と題して、北海道の目指すべき姿と技術士が果たす役割について多くの技術士が集い考えてもらう。

今、世界は、未曾有の時代にある。この時だからこそ技術士は、今一度、いや今まで以上に「技術士は何ができるか、何をなすべきか」を考え、パワーを発揮していかなければならない。

さる研究会のシカ肉をテーマにしたパワー溢れる活動を思い出す。技術士が、専門分野を越えるのは勿論、さらに技術士の枠を超えた様々な人々と連携をはかり、解決の新たな仕組みづくりを模索し、活動し、そしてこの北海道で大きなうねりとなっていることを期待している。

己丑の2009年は、いい年になってほしい。新しい時代の一步を築こう。